



JPI催しのご案内

社団法人 日本包装技術協会 関東支部

2010
6
月

開催要領

会 場	社団法人 日本包装技術協会 会議室 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
日 時	平成22年6月25日(金) [第1部]13:15~15:00 [第2部]15:15~17:00
参加費	JPI法人・個人会員:無料 / 一般:3,150円(1講演あたり)

第1部 第183回包装資材研究会 <講演①>13:15~14:00 <講演②>14:00~14:45 <質疑応答>14:45~15:00

【講演①】塩ビの安全性について

【講 師】塩ビ食品衛生協議会 常務理事

石 動 正 和 氏

塩化ビニル(塩ビ)樹脂は多様な配合処方に基づき、硬質から軟質まで幅広い製品を生み出してきた。モノマーや各種添加剤の安全問題に直面してきたが、協議会は科学的知見に基づき、関連団体や会員と連携し対応してきた。特に食品用器具・容器包装の安全管理については、食品安全法と協議会の自主規格による世界にも例のないユニークな管理システムを作っている。一時期の風評問題はかなり沈静化しているが、アジア諸国では日本が過去に経験した問題が再燃しており適切な対応が必要である。一方日本については、伝統的な衛生

観念の高さに加え、欧州のREACHやRoHS、米国のTSCA改正など周辺の影響もあり、安全への要求レベルは一層上がっている。従来のハザード管理からリスク管理への移行は世界的流れとなり定着しつつあるが、更にリスクトレードオフ、リスク・ベネフィットのバランス論にシフトしている。こうした中、今回の講演では、添加剤を中心に主要な安全問題について最新情報を紹介するとともに、安全衛生のトレンドの中で塩ビの有用性を再評価するものとした。

【講演②】ポリ塩化ビニリデンの環境問題・安全性について

【講 師】塩化ビニリデン衛生協議会 専務理事

山 本 正 孝 氏

所沢でダイオキシンが問題になったのは今から11年もの事であった。技術的問題がクリアされ焼却炉の改良が整った2003年以降には、ダイオキシン問題はマスメディアの対象では無くなった。それにもかかわらず一旦悪者扱いされてしまった塩素系ポリマーに対するマイナスの拘りは、いまだに払拭されないようである。今回、多くの

関係者にとっては常識かも知れないが、塩素系ポリマーとダイオキシンの関係について問題なく安全であることをもう一度整理して述べる。また、後半はダイオキシン被害を受けたが、その後包材としての良さが見直され復活しているPVCコート製品について、その特性・安全性などまじえ紹介をする。

【コーディネーター】キユーピー(株) 研究所 商品開発センター 包材チーム チームリーダー 包装管理士 高 山 崇 氏
東洋科学(株) 営業開発部 3グループ リーダー 課長代理 包装管理士 金 原 直 樹 氏

第2部 第61回包装情報研究会

15:15~17:00

【テーマ】「味の素グループの環境・サステナビリティへの取組み ～いのちのために働く～」

味の素グループは2009年、創業100周年を迎え、次の100年に向けて、グループ全体で「おいしさ、そして、いのちへ。」というメッセージを掲げ、「いのちのために働く」取組みを進めている。味の素グループが貢献できる21世紀の人類の基本課題は「食資源の確保」、「健康希求の充足」、「地球環境保全」の3つであると考え、事業を通じてこれらの課題解決に貢献することを、味の素グループの存在意義としている。「地球環境保全」という大きなテーマの中でも、「生態系・生物多様性の保全」、「低炭素社会の実現」、「資源循環型社会の実現」への貢献は、

喫緊の重要課題と認識している。特に、世界各地において、農・畜・水産資源を活用し、バイオテクノロジーを強みとし、地域に根ざして事業展開する味の素グループの事業活動は生態系サービスに依存していることから、すべてのいのちの営みのベースである「生態系・生物多様性の保全」は、最も基本的かつ重要な取組みと考えている。味の素グループの環境・サステナビリティへの考え方と、それに基づく様々な取り組み事例をご紹介します。

【講 師】味の素(株) 環境・安全部 兼 CSR部 専任部長

杉 本 信 幸 氏

【コーディネーター】凸版印刷(株) 生活環境事業本部 事業戦略本部 企画管理部 営業企画チーム 部長 井 藤 宰 正 氏
森永製菓(株) ウイダー事業本部 ウイダーマーケティング部 ウイダー第一カテゴリーマネジャー 包装管理士 塩 野 谷 学 氏

本研究会は包装や物流に関する専門的知識の普及を目的としたものであり、受講のためには同分野での経験が必要です。

6月研究会参加申込書

研究会に参加を希望される場合には、下記申込書にご記入のうえ、本紙をFAXして下さい。(FAX番号 03-3543-8970)

法人会員 ・ 個人会員 ・ 一般		いずれかに必ず○を付けて下さい	
会 社 名		T E L	
所 在 地	(〒)	F A X	
参 加 者	(氏名)	(所属役職)	
	(e-mail)	@	第1部・第2部
	(氏名)	(所属役職)	
	(e-mail)	@	第1部・第2部
	(氏名)	(所属役職)	
	(e-mail)	@	第1部・第2部

【見学先】森永乳業(株) 東京多摩工場 東京都東大和市立野4-515

【日 時】平成22年6月29日(火) 13:30~15:30

【定 員】40名 *定員になり次第締切り

【集合場所】森永乳業(株) 東京多摩工場

【参加費】当会会員の方無料/一般の方2,100円

【見学先の概要】

森永乳業(株)多摩サイト(東京多摩工場)は、牛乳・果汁飲料を主に生産している。当日は、最初に工場の概要説明とDVDを鑑賞頂き、見学では、大きなガラス窓から牛乳と果汁飲料を生産しているラインを見学頂く。

★お申し込みはファクシミリによる先着順受付とさせていただきます。

★お申し込み方法は紙面に第262回見学会参加希望とご記入の上、会社名、所在地(〒)、参加者名、所属役職、電話番号、FAX番号をご記入下さい(記入漏れがある場合、無効となりますのでご注意ください)。

★参加証の発送をもって、申し込み受付に替えさせていただきます。参加証は開催日一週間前に発行いたします。

★同業他社の方のお申し込みの場合、受け入れ出来ない場合があります。

見学会のお申し込み並びにお願い(毎回規程が変わりますので必ずご確認ください)

第48回全日本包装技術研究大会 ー京都大会ー 発表者募集

開催要領

名 称: 第48回全日本包装技術研究大会

主 催: 社団法人日本包装技術協会

後 援: 経済産業省・農林水産省・国土交通省・防衛省・他関連官庁

開 催 日: 平成22年12月7日(火)~8日(水)

会 場: 国立京都国際会館

参加人数: 400名(予定)

発表者募集要領

発表部会: 包装資材・包装ラインシステム化・環境包装・食品包装・生活者包装・医薬品包装・輸送包装・化粧品包装・電気機器包装

発表時間: 1件あたり30分(質疑応答含む)

募集件数: 70件(定員になり次第締切り)

発表料: 無料

申込期間: 9月15日(水)まで

併催事業「企業見学会」のご案内(予定)

開 催 日: 平成22年12月9日(木)

集合場所: 京都駅 八条東口

参加資格: 48回年次大会参加者

参加費: 5,250円(税込)

集合時間: 8時40分

見 学 先: ①月桂冠(株)大倉記念館 ②バイエル薬品(株) 滋賀工場

◆お申込及びお問合せ先◆

社団法人日本包装技術協会 第48回全日本包装技術研究大会係 担当:小橋 TEL:03-3543-1189 FAX:03-3543-8970 e-mail:kobashi@jpi.or.jp

2010東京国際包装展

~成長のヒントは、包装にある~

平成22年10月5日(火)~10月8日(金) 東京ビッグサイト

TOKYO PACK 2010

OCT.5-8 TOKYO BIG SIGHT

~Keys To Success Lie In Packaging~

ユーザーへの抜群の知名度、定着度を誇る本展は1966年の第1回開催以来、今回で23回目を迎えます。アジア最大級のパッケージの総合展示会として、包装のすべてを網羅し、あらゆる分野から最新の包装資材・包装機械・包装関連機材類などが一堂に展示され、出展者は500社以上を数え、国内外から多くの来場者を迎え、毎回ご好評を頂いております。「成長のヒントは包装にある。」をメインテーマに、皆様のビジネス拡大の場として、また包装の役割、重要性を再認識して頂くステージとして、広くご活用いただけるよう諸準備を進めております。

名 称 2010東京国際包装展 ーTOKYO PACK 2010ー

テ ー マ 成長のヒントは、包装にある。

会 期 2010年10月5日(火)~8日(金)の4日間 10:00~17:00

会 場 東京ビッグサイト(東京国際展示場)東ホール全館

主 催 社団法人 日本包装技術協会(JPI)

目 的 包装資材、包装機械から包材加工機械、食品機械、関連機器類、環境対応機材、物流機器類に至る生産・包装・流通の技術振興をはかるとともに、商談や交流及び包装の最新情報発信の場として、国際的な視野に立った社会の発展に資することを目的とする。

後 援 経済産業省/外務省/国土交通省/農林水産省/環境省/防衛省/東京都/日本商工会議所/日本貿易振興機構/日本生産性本部/アジア生産性機構/世界包装機構/アジア包装連盟/日本包装機械工業会/日本マテリアル・ハンドリング(MH)協会/東京ビッグサイト

協 賛 包装関連約100団体

◆お申込及びお問合せ先◆

社団法人日本包装技術協会 2010東京国際包装展事務局 TEL:03-3543-1189 FAX:03-3543-8970 e-mail:t-pack@jpi.or.jp

【個人情報の取扱いについて】

1. 個人情報は「(社)日本包装技術協会 関東支部 月例研究会」の事業実施に関わる資料等の作成、ならびに当会が主催・実施する各事業におけるサービス提供や事業のご案内等のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り、配布する場合があります。
2. 参加申込によりご提供頂いた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、個人情報を第三者に開示、提供することはありません。

◆お問い合わせ及び各種催しの申し込み先◆

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F

社団法人 日本包装技術協会 関東支部 担当:小橋

TEL.03-3543-1189 FAX.03-3543-8970

●JPI催しのご案内はインターネットでも公開中です。 URL <http://www.jpi.or.jp>